

NARO Research Prize 2008

表彰

収穫・利用コストを5分の1にする飼料イネの立毛放牧技術

千田雅之(中央農業総合研究センター・関東飼料イネ研究チーム)

研究の目的・背景等

飼料イネの採草率の向上と収穫・利用コストの削減、及び放牧期間の延長など肉牛経営の発展方策として、繁殖牛による飼料イネの立毛放牧技術を開発し、その経済効果等を明らかにした。

研究の概要

電気牧柵を活用して放牧牛の採食行動を制限することにより、圃場の飼料イネの採草率を95%以上に高め、10aあたり100Cow Day以上の高い牧養力が確保でき、11月末まで放牧期間の延長が図れる。飼料イネの放牧利用は、専用収穫機による稲発酵粗飼料の収穫・運搬・利用コストと比べて約5分の1に減少する。また、収穫・運搬作業の削減と資材や燃料の節約により化石エネルギーの使用を節減できる。



図1 電気牧柵を活用した飼料イネの放牧利用

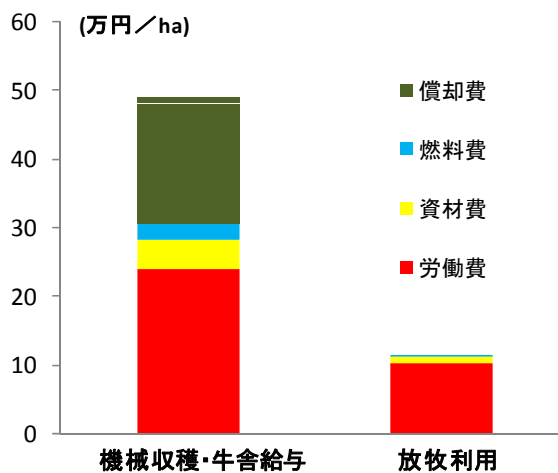


図2 飼料イネの収穫・利用コストの比較

